

市の取り組み

	計画の記載	令和5年度の実施状況・今後の実施予定
1 多文化共生のための施策の検討	市内関係部局と調整、あるいは他自治体の対応事例を調査するなどして、多文化共生のためにどのような取組が出来、また効果があるのかを検討し、そのうえで施策として実施していきます。その施策の実施のために、必要であれば予算措置を行います。	【令和5年度の実施状況】 和光市国際化推進計画に基づき、ホームページや窓口で多言語・やさしい日本語での情報提供をしています。また、市内の外国人支援団体と協働で日本語教室を74回開催し、子育て世代への支援として、NPO法人わこう子育てネットワークと協働で多文化子育て支援事業～通訳サポート～を2件実施しました。 【今後の実施予定】 今後も継続してホームページ等でのやさしい日本語や外国語での情報発信に努めます。また、多文化子育て支援事業において、支援を必要としている外国籍住民にサービスが提供できるよう、制度の更なる周知や事業内容の改善を行っていきます。
2 評価指標の検討	現在、外国人が増加している傾向にある一方で、外国人と地域で生活していくにあたってのニーズを知るための調査・指標等がありません。そのため、今後実施する調査等において、実態の把握、また施策の進捗評価が出来る指標の検討を行います。	【令和5年度の実施状況】 外国人の実態やニーズを把握する調査は行っていません。第三次和光市国際化推進計画に基づく庁内各課の実施状況について、調査を実施しています。 【今後の実施予定】 今後も継続して第三次和光市国際化推進計画に基づく庁内各課の実施状況を把握し、それらを参考に同計画見直しの際に、施策の改善を検討します。

施策	施策12 ひきこもり対策
評価指標	ひきこもり関係事業の実施回数
目標値	中間見直しまでに検討⇒令和5年度の計画進捗管理において、目標値の設定

工程表

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
目標	ひきこもりセンター（仮称）の設置及びひきこもりに関する普及啓発活動の実施					
実績	アウトリーチの開始 アウトリーチの開始 ひきこもりセンターの設置					
目標			当事者家族のための情報共有の場の設置			
実績		当事者家族のための情報共有の場の設置（1 年前倒し）				

市の取り組み

	計画の記載	令和5年度の実施状況・今後の実施予定
1 ひきこもりセンター（仮称）の設置と早期発見・早期介入	ひきこもりセンター（仮称）を設置し、民生委員など地域の実情を知る住民と情報共有することで、ひきこもりの発見とアウトリーチ型の支援に繋げていきます。支援にあたっては、適切なアセスメントを実施し、それぞれの状況に合わせたプランを立てた上で伴走型の支援を行っていきます。	【令和5年度の実施状況】 アウトリーチ（自宅訪問等）を実施し、訪問を重ねることで信頼関係が築かれ、支援につながる事例があったため、有効性が確認できました。 【今後の実施予定】 令和4年10月に和光市総合福祉会館内にひきこもり相談センターを設置。ひきこもり相談の広報・周知を強化し、相談が寄せられるよう、継続し環境整備に努めます。
2 世帯に対する包括的支援の実施	ひきこもりを抱える世帯においては複合する課題を抱えるケースも多いため、的確に問題を把握し、家族に対する適切な助言・指導を行うなど、本人に対する支援だけではなく、世帯に対する包括的な支援を実施します。	【令和5年度の実施状況】 家族（親族）からの相談については、まずはひきこもりの方に対する理解を促し、チームとしてアプローチするための協力体制の構築に力をおいて支援にあたりました。 【今後の実施予定】 引き続き、ひきこもりの方に対する理解を促し、家族の協力を得ながら支援を行います。
3 当事者家族のための情報共有の場の設置検討	ひきこもりの当事者やその家族同士が情報を共有したり、悩みを相談できるような場づくりを検討します。	【令和5年度の実施状況】 ひきこもり当事者同士の交流の場としてフリースペースや家族向けのひきこもり相談会に加え、勉強会や交流会も開催しました。 【今後の実施予定】 多くの人に活用していただけるよう、フリースペースやひきこもり相談会の充実や周知・広報に引き続き努めてまいります。

施策	施策13 自分らしくいられる居場所づくり
評価指標	小地域福祉活動（見守り活動やふれあいサロン活動）団体等の活動拠点や社会資源のマップ化
目標値	令和4年度までに作成⇒令和5年度以降の計画進捗管理において、目標値の設定

工程表

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標	小地域福祉活動団体等のマップ作成・管理・活用					
実績	マップ案を作成し、地域ケア会議にて試験的に使用開始した。	助成金の交付や、既存の公共施設における活動の場の活用について検討を行った。	助成金の交付や、既存の公共施設における活動の場の活用について検討を行った。	高齢者向けウェブプラットフォームGBERの運用を開始し、地域団体の活動拠点や社会資源のマップ化を実現した。		

市の取り組み

	計画の記載	今年度の実施状況・今後の実施予定
1 居場所づくりの検討	誰も取り残さない地域を構築するために、身近で、自分らしくいられる居場所づくりを検討します。具体的には、既存の公共施設の有効活用の検討に加え、新たな空き家・空き店舗などの利用、またその促進につながるような取組を、社協と連携して行います。	【今年度の実施状況】 市内9小学校区全てにおいて、地区社会福祉協議会の立ち上げが完了しました。また、高齢者向けウェブプラットフォーム「GBER」の運用を開始し、地域団体の活動拠点や社会資源のマップ化を実現しました。 【今後の実施予定】 地域共生社会の実現に向けて、住民が主体となり活動できる身近な居場所づくりの支援について検討していきます。